

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語る『信州の山 新世紀元年』」

日 時 平成26年 6 月 7 日（土） 13時50分から15時まで

場 所 富士見パノラマリゾート ゴンドラ山頂駅レストラン（諏訪郡富士見町）

### 目 次

1 開会	・・・	P 2
2 知事 冒頭あいさつ	・・・	P 3
3 意見交換		
(1) トピック 1 「信州 山の日」の制定を林業分野でどう生かしていくか	・・・	P 5
(2) トピック 2 五感で感じる山、美しく安全な山に向けて	・・・	P 1 5
4 知事 結びのあいさつ	・・・	P 2 5
5 閉会	・・・	P 2 6

阿部守一（長野県知事）

進 行 役 鈴木啓助氏（信州大学教授 長野県「山の日」検討懇話会座長）

話題提供者 松尾雅子氏（信州登山案内人 南信州山岳ガイド協会所属）

〃 原薫氏（(株)柳沢林業代表取締役 信州フォレストコンダクター）

ゲストスピーカー 矢口史靖氏（映画監督）

この県政タウンミーティングは、「『信州 山の日』50日前カウントダウンイベント in 富士見町」の一環として開催しました。

## 1 開 会

### 【広報県民課長 土屋智則】

お待たせをいたしました。それでは、第2部、「青空トーク」改め「雨空トーク」ですかね、県政タウンミーティングを始めてまいります。私は、進行を務めます、県庁広報県民課長の土屋智則と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日の県政タウンミーティングは、「知事と語る『信州の山 新世紀元年』」と題しまして、阿部知事と、それから信州の山をフィールドといたしましてご活躍のゲストの皆様、さらには会場にお集まりの皆様と意見交換を進めてまいりたいと思っております。

それでは、早速、ゲストの皆さんをご紹介します。最初に、意見交換の進行をお願いいたします、昨年度、長野県「山の日」検討懇話会の座長をお務めいただきました、信州大学教授の鈴木啓助様です。

### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

鈴木です。よろしくお願いします。

### 【広報県民課長 土屋智則】

続きまして、信州登山案内人としてご活躍の松尾雅子様です。松尾様は、長野県独自の山岳ガイド資格でございまして信州登山案内人といたしまして、特に南アルプス、中央アルプスを中心に活動をされてございます。また、県の自然保護レンジャーとしてご活動でもございます。今日はよろしくお願いをいたします。

### 【松尾雅子氏】

お願いします。

### 【広報県民課長 土屋智則】

次に、株式会社柳沢林業代表取締役の原薫様です。

### 【原薫氏】

原と申します。よろしくお願いします。

### 【広報県民課長 土屋智則】

原様は、林業技術者、林業経営者でございまして、また木の文化を受け継ぐ担い手として県が認定してございます、信州フォレストコンダクターの第1期生としても活躍しております。今日はよろしくお願いをいたします。

そして、映画監督の矢口史靖監督にも、引き続き、ゲストスピーカーとしてご参加を願いたいと思います。よろしくお願いをいたします。

皆様、どうぞよろしくお願いをいたします。

## 2 知事 冒頭あいさつ

### 【広報県民課長 土屋智則】

それでは開会に当たりまして、長野県知事阿部守一よりごあいさつを申し上げます。

### 【長野県知事 阿部守一】

それでは改めまして、こんにちは。ここからは、県政タウンミーティングを始めさせていただきます。

私が知事に就任してから、県民の皆さんといろいろなところで対話しようということで、今回で38回目です。いろいろな会場でやってきまして、本当は、今日、屋外でやれば、タウンミーティングで初の野外開催になったのですが、天候の関係で屋内になってしまい残念です。

今日は、矢口監督にも加わっていただいて、そして、今、ご紹介いただいたゲストの皆さんにも入っていただいて、ぜひ、皆さんと一緒に、信州の山について、考えていきたいと思っています。

視点としては大きく2つあると思っています。1つは林業ですね。山の資源をどう生かしていくかという観点。長野県は、県土の8割が森林だと先ほど申し上げましたけれども、単位面積当たりの木材生産量が全国で43番目とされています。言われているというか、これ、データですからそうです。私、いろいろなところで言っているのは、長野県は森林県ですよ。だけど、原さんがいるので怒られるといけないんですけど、森林県だけ林業県ではないと言っているんですよ。これ、林業関係者が頑張っていないわけではなくて、やはり我々行政も含めて、身近な森をしっかりと生かしていこうと、木材資源をもっと活用しようという意欲と思いが、今までいささか弱かったんじゃないかなと思います。ぜひ、今日はこの林業、森林、どう生かしていくかということを一つ皆さんと考えたいと思います。

それからもう1つは山、山岳観光ですね。今日も、皆さん、こうやって長野県の山に登ってもらっていますけれども、観光県です、長野県は。そういう中で、この山岳高原を世界水準のものにしていこうということで、県は、今、取り組んでいます。ただ、それにはいろいろな課題があります。登山道の整備をどうするんだ、山小屋のトイレをもっと整備していかなければいけないのではないかと、あるいはその安全対策。長野県の山にお越しただく方の数は、毎年、増えています。70万人を超える方たちが、長野県の山に遊びに来ていただいているんですが、それと比例してというか、率的にはその伸びを上回って山岳遭難件数が増えているという状況もあります。やはり、安全に楽しんでもらえる山をどうしていくかということも大きなテーマだと思っていますので、ぜひ今日はそういう観点で、ゲストの皆さんを交えて皆さんと一緒に話をし、何か少しでも、同じ方向性を見出すことができればいいなと思っています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

### 3 意見交換

#### 【広報県民課長 土屋智則】

ありがとうございました。それでは、早速、意見交換に移ってまいります。なお、本日の意見交換の中身につきましては、後日、県のホームページでご紹介をしたいと思います。会場にお越しの皆様からいただきましたご意見につきましても、お名前などは伏せた上で公開してまいりますので、あらかじめご承知おき願いたいと思います。

それでは、これから先の進行は、鈴木先生にお願いをいたします。どうぞよろしく願いいたします。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

それではよろしく申し上げます。実は、先ほども知事と監督が非常に上手なインタビューをされたので、うまく進めることができるかどうか心配なんです。よろしくお願いします。

今日のタウンミーティングのテーマにつきましては、今も阿部知事のほうからご説明がございましたけれども、2つ、今日はトピックスとして考えております。1つは、やはり、確かに3番目に多いというか広い森林県でありながら、先ほど知事からありましたように、1ヘクタール当たりしてみると43位だと。ただ、生産量としては全国17位ということらしいのですが、確かに利用部分、下から数えたほうがずっと早いというようなこともあって、森林県だけれども林業県ではないということについて、意見交換をしたいと思います。

それから加えて、これはもう新聞・テレビ等でもよく出てきますけれども、シカなどの野生の鳥獣害の問題もございます。ですから、「信州 山の日」ということが今年から制定されますけど、それと林業分野との関係をどうするかということについて、1つ目、皆さんと意見交換したいと思います。

2つ目のトピックとしては、やはり高原を含めた山岳というのも、非常に重要な長野県にとっての観光資源でございますけれども、それを生かして国の内外から人をお呼びするということですか、それから、最近、増加していますけれども、中高年の登山者、そしてその中高年登山者の事故が非常に多いということもございます。その安全の面とか、それから山岳環境についても議論をしていきたいなと思っております。

矢口監督には、意見交換の中で、先ほどもいろいろとお話ございましたけれども、「WOOD JOB! (ウッジョブ!）」の撮影を通じていろいろな方とお付き合いがあったかと思っておりますので、林業関係者の方々との意見交換に基づいて、時々、話をお聞きできればと思っております。実はもう監督は、中村林業株式会社という所属らしいですね。

#### 【映画監督 矢口史靖氏】

中村林業の広報を担当しています。映画を見た人しかわからないと思いますが、今、そんな感じで全国で担当しています。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ということですので、よろしくお願いします。

では、トピックに入る前に、私から「信州 山の日」の制定について、簡単にご説明させていただきます。山の日の制定の趣旨は、長野県民共通の財産であり、貴重な資源である山に感謝し、その山の恵みを将来にわたり持続的に享受していくため、山を守り育てながら生かしていく機運の醸成の機会として定めるということになっております。ここで言う山は、国内、23座あるうちの15座を占めている3,000メートル級の山というだけではなくて、身近な、ある意味で里山まで含めて、「山」というふうに考えておりますので、その辺、よろしくお願いします。

それではこの財産である山を、これは絶対に次の世代というか、未来の世代に引き継いでいく必要があろうかと思えますけど、そのためにも、ぜひ、若い世代の方に山に触れていただきたいという思いがございます。そのために、子どもたちが夏休みに入る7月の第4日曜日ということで、知事に制定いただいたという経緯もございます。

そんなことで山の日の制定の趣旨がございますので、今日は、それにかかわることで、2つのトピックということで、林業と山岳高原観光ということで議論をしていきたいと思えます。

**(1) トピック1 「信州 山の日」の制定を林業分野でどう生かしていくか**

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

それでは早速でございますが、1つ目のトピックであります、山の日の制定を林業分野でどう生かしていくかということにつきまして、地域の森林・林業の現状について、フォレストコンダクターでありながら経営者でもあります原様から、信州の山が抱える問題ですとか、森林の恵みをどのように生かしていくべきかといった観点からお話をいただければと思えます。原様、よろしくお願いいたします。

**【原薫氏】**

改めまして、松本市で、素材生産という木を伐採するのがメインなんですけれども、そういう会社を代表しております原と申します。よろしくお願いします。いいお話だけであればいいんですけれども、課題というものも様々ありまして、その中で、今日は、若い人たち、林大生（長野県林業大学校の学生）の方たちが見えているということで、その辺につながるお話ができればいいかなと思っています。

ありがたいことに、今、林業は、業としては成り立ってないのですが、仕事はたくさんあります。ただ、残念ながら、我々が主導権を握れるような形ではないので、ややもするとというか、今年の冬のシーズンは、松本は雪がもともとあんまり降らないところなんですけれども、1メートルぐらいの雪が2週間続けて降ってしまったことで、いろいろなところにしわ寄せが来てしまうんですけれども。そういうことがなかなか理解していただけないというようなこともあったりします。

どうしても工事関係なので工期というものがあるんです。いつまでに終えなければいけない。そういうものも、さっき言いました業として成り立っていないがゆえに、補助金というもの、皆様の税金を使わせていただくのですが、それまでに（工期までに）終えなければいけないという中で、すごく現場は焦りが出てしまうんですね。残念ながら、今年に入ってから全国で林業に関係する災害がおきています。もともと災害が多いとは言われているんですけども、15～16件、私が知っているだけでそのぐらいあるので、もう少し多いかもしれないんですけど、死亡災害が起きてしまっています。

本当に、私も経営者になってみて、安全第一とあって、もちろんそれを優先するんですが、何よりも、現時点では、仕事があることより、どれだけ安全で確実な作業をこなせる人材を育てられるかということが、本当に一番の課題かなと思っているんですね。知事のほうでもすごく林業に力を入れてくださるんですけども、もちろん山をどうするかということと、出口を、木材を使うという出口をつくと同時に、やっぱり本当に人がなくてはできない仕事なので、人を育てる体制づくりというもの。本当は、林野庁のほうでも進めていることはあるようなんですけども、なかなかそれを待っていては、うちも、毎年毎年、仕事が増えていくこともあるので、企業でもできる範囲で、先行投資的に今年から、人材育成というか、社内研修というか、その辺を充実させていこうかなとは思っています。本当でしたらその辺を、うちの会社だけでなくやってほしい。

実は、長野県の職員の方って、すごく優秀な方が多いんですよ。私もいろいろな研修を受ける中で、そういう方たちからいろいろなことを教えてもらいます。結構山に入っているながら地域の山のことを知らなくて、その辺の知識的な部分、現場の仕事は我々がプロとしてできるようにならなければいけないんですけど、山の知識的なことというのは、本当に県職員の方たちはご存じで、そういう県の職員の方たちを人材として生かすという意味でも、もっともっと人的な交流もしていただきながら、ご指導いただけたらと思っています。その人材育成というところを課題の一つとして提案させていただけたらと思います。

もう一つ、森林の恵みをどのように生かしていくべきかという話です。森林の恵みって、別に木材だけではないんですね。もちろん木材生産という観点からも、我々も山のプロとして、そういう、先ほども言ったような人材育成をしていかなければいけないとは思いますが。私は少し猟もやるので、山の恵みをジビエに絞ってお話しさせていただきます。

長野県って、全国的に見ればものすごく針葉樹以外の、針葉樹以外のって変な言い方ですね、広葉樹の山がすごく資源量としては多い県です。あえてそれを考えて、知事がおっしゃる林業県というものは、少し木材資源、木材生産に特化している意味合いが強いのかなと思っています。何かせつかくほかの県とは違って、そういう広葉樹が多いという特色を生かした、例えばジビエだったら、もうそれだけで差別化というか、ブランドというか、ほかの県、確かにシカも多いですけど、兵庫県なんか特にそうですけどね。本当にシカ柵に人間が囲われているのか、シカを囲っているのかよくわからないような山がすごく向こうは広がっているんですけど。そういうところでも、実は針葉樹、杉とかそういう山が広がっているんですね。

そこまで味の違いがわかるかわからないんですけど、でも、結局、イノシシも木の実を

食べるわけで、そういうイノシシの肉とか食べられた方はわかるかと思うんですけど、脂の部分がすごくおいしいんですよ、どんぐりを食べていると。普通、女性だと、買ってきたお肉の脂のところをちょっと除いたりしちゃうと思うんですけど、イノシシの脂はものすごく香ばしくておいしいんですね、甘くて。そういうのは、やっぱり木の実が豊富にあるところでない、そういうイノシシは育たない。

例えばそういうふうには、こういう山が広がっているから、こういう味の野生肉が食べられるんだという、それが、山の存在そのものが、そのジビエの味というか、ブランドになるんじゃないかなと。そんなことも含めた、何というか、山づくりというか、そういうことを、せっかくこういう山が広がっている信州だからこそできるのではないかなと実は思っています。

そのあたり、山を生かすというのは、ある意味、年配の人たちだったら、山の恵みってものすごくたくさん、いろいろな角度から、生活を豊かにするために暮らしに取り入れたと思うんですけど、今は少しその辺が山と距離ができてしまった期間が長いので、これから見つけるのは少し難しいということはあると思います。でもそれは、もう一度、人が山に入り込むことで、いろいろなこう、宝物探しじゃないですけど、新たに、これも山の恵みだよっていうのを皆さんと発見していけたらなと思っています。その2点を課題として提起したいと思っています。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

どうもありがとうございます。今いただいた話題をもとに、これから意見交換していきたいと思っています。早速ですが、最初に阿部知事から、今の原さんの発言を受けて、お考えをお願いいたします。

#### 【長野県知事 阿部守一】

そうですね、まず、人材育成は、ぜひ、これをやったらというのを教えてください。逆に原さんにお伺いしたいのは、私は産業全て人づくりが大事だと思っていて、その中で、フォレストコンダクターの制度をつくって、研修、人材育成をやっていこうということで取り組んで、原さんは1期生ですよ、フォレストコンダクターの。あれは、今みたいな形でいいのか、もっと何か進化させていったほうがいいのかという感じなのかということと、それから林業大学校の生徒が来ているんですね、今日は。20人ですか。

実は、農業は農業大学校があって、農業大学校は、相当、今、改革をしているんですよ。農業も、今まではどちらかというと、技術的な側面の、要するに栽培技術の習得に力を入れていたんですが、これからはやはり、マーケティングから含めて、全体の農業経営をできるような人材をつくらなければいけないということで、企業の経営マインドを養うような授業も含めて、実践経営者コースというのを今年から始めているんですよ。

林業においては、林業大学校のあり方とか、そのフォレストコンダクターのあり方とか、どういう方向で充実をしていけばいいかというのが、もしご意見があれば教えてもらいたいなと思っていますが、いかがでしょうか。例えば、最初のフォレストコンダクターの制

度を始めて、どうだったかということだけ教えてもらえれば。

### 【原薫氏】

私は、この制度があったから、新たに何かを計画して取り組んだってということではなかったんです。そこまでうちの会社も余裕がないので。ただ、当初から、昨年度1年かけて、少しずつ地域材というものを活用していこう。そのためには、我々は要するに山に入って木を切って丸太を生産することしかできないので、丸太を担いで営業に行くわけにいかないんですね。やっぱり製材されて製品になって、それと同時に、これはこういう山から我々が切り出してきたものですというような営業をしていかなければいけないわけです。そうすると製材屋さんや製材メーカーさんと連携していくことが必要なんです。かなり数は少なくなってしまった松本平の製材屋さんたちと組み始めて、そういうことをもう少し展開していこうという時期だったので、1年間かけてそれを発展させていこうとする取組に対して、このフォレストコンダクターの制度、育てようという制度は、使わせていただけるものだなというのはあったので、正直、ありがたかったですね。

多分、皆さん、どこの事業体、森林組合さんも、同じ問題を抱えていると思います。ただ、初めての試みだったということもあるので、なかなかこう、何ていうんですかね、県の方たちから提供されたものと、本当の現場サイドから求めるものとの、少しずれはあったのかなとは思いますが。でもその制度自体は非常にありがたいものだと思います。経営の意識というものもすごく盛り込まれていたのです。

### 【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。基本的に、原さんがさっきおっしゃった人材育成、個々の林業経営体ではなかなか人材育成は難しいというお話は、そうなんだろうなと思って伺いますし、私は、産業全般そうなんですけれども、行政がやれることって限界があるんだと思っているんですよ。では、だけどそうは言っても行政がやらなければいけないことは何かと言ったら、一つは技術的な点。技術開発のような研究開発のところと、それからもう一つは人材育成だと思っているので、そこはしっかり受けとめて、林業大学のあり方だとか、フォレストコンダクターのあり方だとかというのは、しっかり考えると同時に、県の職員も、なるべく企業の皆さんと一緒に行動できるようにしていきたいと思います。

それからもう一つ、後段のジビエの話です。ジビエの話は、信州ジビエ研究会というのをつくって、今、やっているんですよ、どんどん。県の植樹祭の会場でも、信州ジビエ研究会の皆さんに出展してもらって、さっきシカの大和煮を、食べさせてもらったりしました。これも、原さんは猟をされるという話もありましたが、猟友会の皆さんたちとも連携しつつ、その川上から川下まで、最後は調理する方まで一緒になって研究会をつくっているというのがうちの県の特徴だと思っています。

まだまだ第一歩のところですけども、今度、シカ肉認証制度をスタートさせましたので、それをもっと広げることによって、どうしても市場を拡大していくときには、やはり安心・安全のところが大事なので、そこをまず行政としてしっかりコミットする中で、広



げていきたいということで、今、取り組んでいます。この部分についても、もう少しこう  
いうことでやったらどうかということがあれば、後で教えていただければと思います。あ  
りがとうございます。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございました。では中村林業の矢口さん、少し何か、林業とジビエについて  
ありますか。

**【映画監督 矢口史靖氏】**

ここまで専門的な話になるとは僕は予想していなかったのですが、なんです。僕も、実際、  
今回の映画をつくるために脚本を書く取材に9カ月ほど三重県に行っていました。三重県  
でもシカの害が非常に多い、そこが悩みだと言っていました。本当にシカ柵をつくるのに、  
手間もお金もかかってしまって、新しく木を植える場所を、昔だったら柵の手間とか考え  
ずに植林すればよかった、苗を植えればよかったのが、今は柵だけじゃ済まない。人間も  
大勢要るし、手間もかかってお金もかかるので、もう植えるのをやめちゃった、皆伐した  
らそれでおしまいみたいな山もたくさん、今、どんどん増えているんですね。だから、こ  
の林業家さんの悩みも聞きましたし、地元でとれた、本当に新鮮なシカ刺しとか、シカの  
ステーキとか、いろいろなものをいただいたら、やっぱりおいしかったですよ。だったら  
このシカ、もっと流通したらいいのにつて、僕は軽々しく言ってしまったんです。でも実  
は、シカ肉の食用としてとれる部分は非常に少ないから、なかなかその流通にも乗せられ  
ないという悩みも伺いました。

ただ、悪いニュースばかりでもなくて、三重県だと、有名な速水林業さんというところ  
に、取材も行ったし撮影させてもらったんです。自分のところの山でとれたヒノキをブラ  
ンド化して、高級材としてマーケット展開しています。自分の家の建材として、壁の中に入  
ってしまう、隠れてしまう材ではなくて、ちゃんと真壁（しんかべ）であったり大黒柱  
だったり、目に見える、人が手で触れる部分に、その高級な材を使いたいというお宅も、  
そこそこお金を持っている方の家だと、そういう高級材というものを使いたいという人も  
結構いらっしゃるのて、その部分にきちんと出口をつくってあげられれば。決して日本で  
とれた杉やヒノキが、ただ高いだけで、だったら外国の材でもいいじゃないかではなく、  
ちゃんとこういいものが、日本で育った木だから、日本で建つ日本の家になっているんだ  
けど、材として適しているんだという、そういうところにきちんと出口が見つかれば、林  
業として行く先は明るいという方もいらっしゃいました。

だからきっこう、イメージづくりといいますか、例えばジビエだったらうまい。日本の  
の木であれば、隠れてしまうところに使うのではなくて、例えばこういう建物、（この県政  
タウンミーティングの会場は梁や窓枠など、人の目に見える部分に集成材を使用していま  
した。）今、ここに、さっきからここ見ていて格好いいなと思っていたんですけども、梁  
とか、柱とか、窓枠とかに使われている集成材だと思うんですが。こういう曲線をつくれ  
る技術がどんどん発展してきているので、コンクリートを打ちっ放しの建物より全然格好

いいと僕は思います。こういう日本の木を使っていたら格好いい建物が建つんだということをもっともっと発信していけばいいのになんて、僕は、素人ながらやはり思ってしまうんですね。引っ込むんじゃなく、なかなか売れないし、外材に押されているしというふうに引っ込んだりうんじゃなく、もっともっとこういういいところがありますよということを、アピールする出口を、自信を持ってつくっていったら、「あっ、そうなのか」と、それを買って消費してくれる人たちも、意識が変わっていくんじゃないかなと思います。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

はい、どうもありがとうございます。今、いろいろとお話を頂戴いたしましたけれども、そこで、皆様からちょっとご意見をお聞きしたい、先ほど黄色い紙と赤い紙という話がありましたけれども、それでちょっと皆様の意見分布をお聞きしたいと思います。

○ここで旗揚げアンケートを実施しました。

会場の皆様に2種類の色の紙を配布し、質問の際に紙のどちらかを掲げることで、質問に対する「はい」「いいえ」という意思表示をしていただきました。

(質問)

これから林業に就きたいか。又は子どもや孫に林業に就いてもらいたいか。

(結果)

「はい」が約6割、「いいえ」が約4割でした。

1つ目は、人材の問題がございましたけれども、今日、実は林業大学校の学生さんがおられるので、おそらくイエスがものすごく多くなるんじゃないかと思うんですが。もし自分で、これから林業につきたい、もしくは、年配の方でしたら、自分のお子さんとかお孫さんにですね、林業というのを職業にさせたいと思われる方はイエスの黄色、いやちょっと考えてないなという方は赤をお出しいただけますか。

はい、ありがとうございます。5分5分もしくは6対4ぐらいですかね。6割ぐらいが賛成の黄色ですけども、4割ぐらいは赤だったように思います。知事、いかがですか、今の意見の結果について。やはりかなり厳しい結果ですか。

#### 【長野県知事 阿部守一】

大勢の皆さんが関心を持っていただくようになって、矢口監督の映画もぜひ皆さんで見てもらいたいと思いますけど。むしろ原さんに、今の結果を見て感想を聞きたいなと思うんですけども。どうなんですか、原さん、経営者としてどういう感じで将来ビジョンを持たれているのかということも含めて教えてもらえませんか。

#### 【原薫氏】

正直、最近、募集はしてないんですけど、雇っていただけますかという問い合わせがすごく多いです。大体、若い人たちですね。仕事は、先ほども言ったようにたくさんあるの

で、人材は欲しいは欲しいんですけど、ただ、誰もがすぐにできるような仕事ではないので、まず、とにかく今は、先ほども申し上げたように、安全で確実な作業ができる社内研修の体制をとにかくつくり上げていかなければというところがあります。そして、もちろん同時進行なんですけど、去年までに入ってきた人もいますので、同時進行ではあるんですが、手探りながらもそういうことを進めていきながら、少し長期的な展望で3年後とか5年後とか、そこからいい仕事がたくさんできるようになればなと思っています。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

はい、ありがとうございます。また、皆さんのほうからご意見を頂戴いたしますけど、もう一つだけ、質問させてください。もう一つは、先ほどから出ているジビエの問題です。僕なんかは、山形県で生まれて、子どものころは、冬になると山鳥とか、ウサギとか、裏山でとっては食べていたので、なかなか買って食べるという意識がまだないんですが。実は、ジビエでシカ肉を食べるに当たっては、今、おそらく相当まだ値段が高いんですね。知事からもお話がありましたように、これから長野県も、シカ肉を流通できるような仕組みをつくるということです。まだスーパーには並んでいないようですが、もしスーパーに並んで、そうですね、やはり少し高くならざるを得ないのかと思いますけれども、牛肉より少し高いぐらいだったら、何とかシカ肉を食べたいと思う方は黄色、高かったら嫌だなという方は赤をお願いいたします。

#### ○ここで旗揚げアンケートを実施しました。

(質問)

牛肉より少し高い値段ならば、シカ肉を食べたい。

(結果)

「はい」が約8割、「いいえ」が約2割でした。

(質問)

豚肉と同じ程度の値段ならば、シカ肉を食べたい。

(結果)

全員が「はい」でした。

これはもう、こちらから見ていると、8割が黄色で2割が赤ですかね。8割が食べていただけると。2割ぐらいの方はどっちかと言えば嫌だと。もし、これ、豚肉と一緒にだったら食べたいというのはいかがですか。豚肉と同じ値段だったら食べたい。もう全員黄色ですね。やはり値段の問題ですかね。知事、流通は何とかならないですかね。

#### 【長野県知事 阿部守一】

さっき試食で、シカの大和煮、これ、食べたいな、そこで食べたいから幾らですかと言ったら、500円でした。500円ぐらいならいいなと思ったんだけど、特別価格で500円、普通

は900円だと言われたので、その価格の話が多分ネックの一つではあるのかなと思います。

ただ、ジビエって、本当はヨーロッパへ行ったら高級なんですよね。例えば、昔、横浜市にいたとき、大鹿村の人たちが大鹿村のシカ肉カレーを横浜のみなとみらいに売りに来ていたことがあって、私も買いに行きました。そのシカ肉カレーだけじゃなくて、近くのレストランでシカ肉をフレンチにして出してもらおうと。そういうところに持っていけば、それなりの値段でちゃんと買ってもらえるはずなんです。

さっき、シカ肉の認証制度をつくらうという話をしましたけど、やっぱり、レストランとか、あるいは大きなロットで流通に乗せようとしたときに、多分、矢口監督が食べられたようなシカ肉の刺し身とか、私も食べましたけど、この集落だとかに行ったらたまたま食べるのであればそれでいいんですが、ただ、消費を拡大していこうというものだと、もっとしっかりしたルートをつくらなければいけない。やはりそれには安心・安全をまず確保することによって、信州産のシカ肉の価値を上げていくと。それでやはり高価格で買ってもらえるような商品をつくるのと同時に、販路を拡大して、それで価格を引き下げていくということが必要だろうと思っていますし、もう一つ、県で政策研究の中で、今、考えているのは、さっき言った、シカって肉があまりとれないですよね。それだったら、もっと使える部分があるんじゃないかと。皮とか、角とかですね。そういうところまで、試しに皮をなめしてもらおうと、これ、結構、上質のものになるんじゃないかという部分もあるんです。そういうところの利用まで含めて、しっかり考えていきたいと思っています。

そのときには、これまた原さんには教えてもらいたいんですが、多分、猟の仕方とか、肉もとり方によったり、さばき方が関係してきます。矢口さんの映画を見てもわかりますけど、ネタバレになっちゃうのであんまり言わないですけども。

**【映画監督 矢口史靖氏】**

ネタバレ、いいですよ。

**【長野県知事 阿部守一】**

いいですか(笑)。やはりさばき方とか時間とか、そういう部分も勝負になってくるので、そうすると、では加工施設をどれだけどういう場所に置くかとか、猟師の人たちとどういう連携体制をつくるかということまで含めて、トータルのシステムをつくるということが必要だろうと思っているんですね。今、そういう方向に向けて取り組み始めたという感じですか。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

はい、ありがとうございます。それでは、今まで出た意見に対してでも結構でございますし、ご自分で今の山の課題、それから山の恵みをどうするかという2つの点について、ご意見ございましたら挙手をお願いしたいと思います。そうしたら、差し支えなければ結構でございますが、どちらから来られて、どんなお仕事かということくらいをご紹介いただいて、手短にご意見をお願いいたします。

**【参加者 男性】**

飯田から来ました。今の感想ですけれども、先ほどシカの肉のお話があったんですけど、私、今は学校で用務員をやっているのですが、前職は損害保険会社にいました、11カ所、転々と全国を回ってきました。特に北海道で気になったのが、やっぱり肉をメインで出すレストランなんかで、自分がハンターで捕ってきて、もうただ同然でくれているようなところも2カ所ほど知っているんですね。ですから、先ほどいろいろ知事のほうでご検討されている件を、僕なりに把握できたんですけども、やはり総合的に流通に乗せていくときに、勝手な意見を言えば、ハンターの人が、今、多分、高齢化し、減少していると思うんです。そういうのを養成していくということも、一つの、シカ肉を安く提供するための手法なんじゃないかと思います。

それと、今、県のことばかり、頑張るようなお話をされていましたが、例えばNPO法人みたいなのを立ち上げて、全国に1口1人1万円とかということであれば、単純計算でいくと10億円ぐらい、NPO法人に集まりますので、そこに、ただの仲間じゃなくて、さっきから出ているレシピについて、相当なお金と時間と労力をかけて、スペシャルなものを信州発でつくっていただいて、肉もそれでちょっと料理しやすいようなものを提供するなどということにしてはどうでしょうか。当面は市や県からの補助も多くなるとは思いますが、そういうような、県ばかり頑張るんじゃなくて、民力をもう少し全国からネットを張って使うようなことをしたら、もっとよくなるんじゃないかなということをおもいましたので発言させていただきました。ありがとうございます。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございます。知事、いかがですか。

**【長野県知事 阿部守一】**

そうですね、ハンター、猟をできる人がどんどん高齢化しているので、そこが一番課題だと思っています。今、銃ではなくてわな猟の免許を取る人を増やしていますし、そのわな猟の資格を取れる人の年齢も、国に言って、今度、引き下げるんですよ。18歳以上が取れるようになります。そういうことも含めて、裾野を広げていきたいなと思っています。

原さんは猟をやっているから、今、猟友会の人たちが有害鳥獣の駆除のお手伝い係みたいになってしまっていて申しわけないんですけども。本当は、これだけ恵みがあるところなので、猟を楽しむみたいな、そういう文化をもっときちんとつくっていく必要があると思っています。

それから、大勢の皆さんの協力の中でというのは、全く私もそう思いますので、さっき言ったジビエ研究会、これ、県だけでやっているんじゃなくて、いろいろな人たちがいる。もっと県外にも声をかけろという話なので、少し、長野県は、それにここ地元の諏訪大社はもともと鹿食免（かじきめん）というのがあって、要は、昔は肉食をしなかったときも、その鹿食免を持っていればシカを食べられたという、そういう森の恵みと共存してきた地

域ですから、そういう文化の発信と一緒に、やはり協力者を全国から募るということも確かに必要だろうと思います。ありがとうございました。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございます。それでは、ほかにご意見はございますか。

**【参加者 男性】**

長野県林業大学校から来ました。先ほど「信州 山の日」が7月の第4日曜日になったということでした。「信州 山の日」が7月の第4日曜日になったのは、小学生、子どもが夏休みに入るのがあるところだからという理由なんですけど、子どもが行って楽しい山というのは、雑木林だったり、里山だったりする、カブトムシとかクワガタとか、虫がいっぱいいる山だと思うんです。そういう山というのは、今の林業から言えば、材という意味では、建築材に使わないような木も多いですし、整備してもあまり意味がないかなと思われがちだと思います。それに対してそこを整備していくというのは、どういうことが必要なのかについてはどう考えますか。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

どうですかね、知事ですかね、原さんですかね。

**【長野県知事 阿部守一】**

里山の整備をどうするかというのは、県全体の課題なので、今、森林づくり県民税というものを、皆さんからいただいているんですよ。その森林づくり県民税を使って、これまでに諏訪湖17個分の面積の里山の整備をやってきています。本当は、里山というのは、人が行き来をする中で育まれてきているし、本当の山と人間の生活圏の境界線のところだったんだけど、そこに人が入らなくなって手が入らなくなったので、さっきから出ている有害鳥獣、我々は何ていうか、シカとかイノシシとかクマとかを有害鳥獣と呼んでいるけれども、動物からすれば、多分迷惑な話で、別に自分たちは有害だと思って生きているわけではないと思いますが。たまたま人間と動物の境界線が荒れてしまったから、人間のエリアに進出していかざるを得なくなってしまっている中でそういう状況が起きている。

やはり、その里山の整備というのは、これからも、県民税を延長させてもらったので、しっかり引き続き整備していこうと思っていますし、加えて、やはりそういうところをもっと活用できる。今日の植樹祭でも、薪ストーブが展示されていましたが、森林資源をもっとみんなで活用する方向で、日々の暮らし方も変えていくことによって、里山も生きてくるのかなと思います。さっきの、県だけで頑張っているという話もありましたが、行政が、さっき言ったように皆さんから税金を頂戴して里山の整備をしっかりやってみましょうということが必要な反面、もう一つ、暮らし方のスタイルとして、森をエネルギーとしてもっと利用しましょう、暮らしの中で、山菜を採りに行ったりする中で、森をみんなで守って活用していきましょうというライフスタイルにしていくのと、両面必要だろ

うなと思っています。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございました。まだまだご意見があろうかと思えますけど、時間的な制約がございますので、次の話題に移らせていただきます。

**(2) トピック2 五感で感じる山、美しく安全な山に向けて**

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

2つ目が「五感で感じる山、美しく安全な山に向けて」という話題でございます。これについては、話題提供ということで、ふだんから山岳ガイドとして活動されております松尾さんから、山を安全に楽しんでもらうにはどうすればよいかとか、それから子どもたちと自然とのふれあいをどうすればいいかというような観点から、お話をいただきたいと思えます。松尾さん、よろしくお願ひします。

**【松尾雅子氏】**

お願ひします。山を安全に楽しんでもらうためにということで、安全で楽しい山という言葉は、私もよく使うんですけども、難しい課題ですね、知事。難しいですね。

**【長野県知事 阿部守一】**

そこはもう永遠の課題です。

**【松尾雅子氏】**

そうですね。多分、このタウンミーティングの最中に答えが出るような課題ではないと思うんですね。多分、本当に、今、知事もおっしゃいましたように、ずっと、永遠にみんな考えていかなければいけない課題だと思っています。一つ、私が思っていることは、安全で楽しく、山を楽しむために、例えば交通ルールみたいに、何か規制をしてしまうとか、そういう考えもあるかもしれないんですよ。例えば登山計画書をどこどこに提出しないと登ってはいけないとか、もしくは登山口のところで身なりをチェックされて、あなた、ちょっとこの山の装備に合っていないからだめだよとか。例えばですよ、そういう規制をかけたとするじゃないですか。でも、それでもやっぱり安全というのは保てないと思うんですよ。

というのは、やはり自然相手のものですから、誰かに規制してもらって守れるものではないと思うんですよ、安全というのは。やはりその山にかかわる人、山に遊びに行く人、山の景色を楽しみに行く人が、自分で何が安全なのかということを常に考えるということが大事だと思います。でも、それではきっと、こういう公の場でも解決方法にならないので、どうですかね、ここに集まっている皆さんはきっと山が大好きだと思うんですけど

も。でもその山が大好きとか、山っていいねとか、フェイスブック的に言うと、「いいね」ってやつですね。矢口監督的に言うと、「WOOD JOB！」みたいな・・・

#### 【映画監督 矢口史靖氏】

まさにこれですね。(矢口氏は「これ」と言いながらサムズアップ(親指を立てるジェスチャー。日本では一般に「Good」を意味する。)をしました。)

#### 【松尾雅子氏】

これですよ。(松尾氏は「これ」と言いながらサムズアップ(親指を立てるジェスチャー。日本では一般に「Good」を意味する。)をしました。)

#### 【映画監督 矢口史靖氏】

僕なんか、山をなめていた代表なんです。三重県の山へ取材に行っている最中に、本当になめていました。マダニにやられまして、これ、あちこちで話しているので、ここでも話しますけど、マダニって、刺されたことある人いますか、この中に。(挙手を求める)この辺はあんまりいないですか。1人いますね。マダニって、ちょっと刺して、蜂みたいになくなるものじゃなくて、その間もずっと刺し続けるんですね。僕が小さいころにいた虫。僕がご神木を刺されまして、私自身。1週間ほど刺しっ放しでとれなかったんです。東京へ帰ってお医者さんにとってもらって、退治したんですけど。ゴアテックスのいろいろなそういうファッションから入って形は整えていったんです。ですけど、本当のところでは、どんな害虫がいて何が危険かというのはあんまり知ってなくて、本当になめて山に入っちゃって、マダニに刺されて、感染症にかかったら死ぬんだよってお医者さんに脅される、そんな事態になりました。

ですが、その意識が全くない人は山に来ないというものではないと思うんですね。本当に1日の日帰りのお楽しみのレジャーとして山に入る、全然ありだと思うんです。映画の中でもそういう、スローライフ研究会という、山をなめてかかっている連中が登場して、山から追い返されるというシーンが出てきますけど。ただ、そこでやっぱりどこかこう、ある線を決めて、ちゃんと気をつけて、ここから先のルールがちゃんと守れる人は入ってもいいけど、それ以前の何も知らない状態では来ないでくれというのを、できる限り告知できたほうがいいと思います。そうすれば、山に入るときは、虫に刺されないもの、ズボンの裾が締まっている服とか、長袖を着ていくとか、あまり真っ黒な服で行くと蜂に刺されたりするみたいなことがちゃんと周知されていれば、多分、僕も刺されなくて済んだのかなと思います。だから映画の中では、そうやって軽々しく山に入っていく人と、軽々しく山に入ってしまったら痛い目に遭うんだということを厳しく諭す山の側の人という、両方の人間がいて、対比させて描いています。

だから映画を見れば、山って、そう簡単に受け入れてくれるわけじゃないんだというのをわかってもらえると思うんですが、全国民が見てくれるわけではないので、何かそういう周知できるようなシステムがあればいいなと思います。



## 【松尾雅子氏】

今、矢口監督が、山を全然知らずになめて、ゴアテックスだけ着ていけばいいやっって、山へ入られたということでした。今、山へ入ってこられる方は皆さん、本当にとても身なりがすばらしいんですね。プロの登山家かって思うほど。というか、私、あんまりいいものを持っていないので、すごいな、この人きつとすごく登れるんだろうなんていつも見上げているんです。だけど見ていると、登山用具はすばらしいですよ、どこの登山用具も本当にすばらしいです。だけど、登山用具はすごく研究されてつくられているんですが、それを使い切れてないんですよ、ほとんどの方が。ザックにしても、カップにしても、靴にしても。身なりだけはそれらしいんですけども、それが使い切れてないとか。あとは、今言ったように、どんな危険があるとか、知らないまま入ってきてしまうとか、そういう方はやっぱり正直増えていると思います。我々山のガイドとしては、山にたくさん来てくれるということはとてもうれしいんですけども、だけど、そういうことを、少しずつでいいから自分から学ぶという姿勢を持ってもらいたいなと思っています。

それと、さっき「WOOD JOB！」って言いましたけど、いいねってということなんです。山っていいねって、いろいろないい面があると思うんですよ。景色がいいねって思う人もいるし、頂上に立てたことがいいねっていう人もいるし、今日、林業の学生さんがいますけれども、山仕事がいいねっていう人もいるし、さっき学生さんがおっしゃっていましたが、別に3,000メートルの、森林限界の山がいいとか、そういうんじゃないで、里山がいいんだとか、虫がいる山がいいんだとか、いろいろないい面があると思うんです。でも、それは総じて、みんな、山というものに対して「いいね」でいいですよ。だから、その「いいね」を続けるためには、いいね、楽しいなというのを続けるためには、一人ひとりが、安全であったりとか、そのマナーというもの、山の掟（おきて）とかマナー、いにしえから続いている掟とかマナーというものを知らなければいけないと思うんですよ。

それは、いや、初心者だから知らないっていうんじゃないで、やっぱり知るといってそのスタンスを持って山に向かってほしいなというのものもあるし、いや、何から学んでいいかわからないというのであれば、我々のような、信州登山案内人という、県が認めてくれる案内人がおりますので、そういうところに声をかけてもらうとか。こういうふうになんとアピールして商売していかないといけないので（笑）、アピールしていきますけれども。あと登山教室を開いたりとかですね。それから県には山岳総合センターといって、山のプロフェッショナルが集まっている、山のことを教えてくれるセンターがあったりします。あとは、やっぱり山国ですから、登山用品店もたくさんありますよね。そういうところでやっているセミナーなんかも、本当に、今現在の、現場に即した技術とか教えてくれます。でも、私が思うには、技術はもちろん大事だけれども、一番大事なのは、さっき言った、「山っていいよね」って感じるのが、まず大事じゃないかなと思います。今日のテーマの中に、五感で感じる山ってあると思うんですけど、それを、ただこう、目で見ていいねっていうだけじゃなくて、肌で感じて、ああ今日の風いいよなとか、そんなふうにして、いろいろなところで感じてもらいたいなと思ってます。

○ここで旗揚げアンケートを実施しました。

(会場に来ている長野県林業大学校の生徒への質問)

幼い頃から山や自然に親しんでいたか。

(結果)

「はい」が約9割、「いいえ」が約1割でした。

ちょっと林業の学生さんに紙を上げてもらいたいんですけど、今、学校で林業を学ぶに当たって、何でその林業大学校に入ったのかというのを伺いたいんです。幼い頃から、山とか、自然によく親しんでいたという人は、ちょっと黄色を挙げてもらいたいんですが、そうではない人はピンクを挙げてください。

ほら、みんな見てください。ほとんどが黄色ですよ。はい、ありがとう。何か、子どもころからそういうことに触れるっていうことが、とても素敵なんじゃないかなって思います。私、このように地元の子どもたちに、地元からみんな育てて出ていく前に、地元の山を知ってもらおう、地元の自然を知ってもらおうと思って、自然体感活動のクラブをやっていたりするんです。そこに来る子たちは、最初は全然自然のことを知らないんですが、回を重ねるごとに本当に山が大好きになって、自然が大好きになって、山というのは高い山だけじゃないですよ、里山も含めて、そういうのが大好きになっていきます。だけど、そこに、楽しいな、大好きだよっていうふうになるには、危険もあるよというのも私は教えているんですね。ではその危険に対して、大人は全て子どもを守ってくれるのかというと、そうじゃなくて、やっぱり一人ひとり、どんな小さな子どもだって、自分の命は自分で守らなきゃいけないんだよということも伝えています。そうすると、小学校低学年のころから大体みんな入ってくるんですけど、高学年になるころには、みんな、本当に自分の命は自分で守れるぐらいに成長しています。そういうような、全体的にそういうような、システムというか、ものができてくるといいなと思っています。

そういう中で、学校登山とかもありますけれども、そういうのも、精神の鍛錬のために山に登るとか、そういう目的じゃなくて、山っていいねって、それだけでいいと思うんですね。その目的で学校登山をすれば、多分、学校登山で山へ行った生徒さんたちは、もう80%、90%、100%近く、山っていいねって思ったまま育て、そして、もしかしたら県外へ出て、都会とかへ出ていくかもしれないじゃないですか、将来。そうしたら、どうですか、知事、どんなチラシを作ったり、ポスターを作ったりするよりも、子どもたちが県外へ出て行って、信州の山っていいよっていうのが一番の広告塔だと思うんです。

#### 【長野県知事 阿部守一】

そうなんですよ。これ、懺悔しなければいけないんですけど、私も、昔、山をなめていたことがあって(笑)。もう時効だから言いますが、大学のサークルで鳥海山へ登山に行ったんですよ。そのときに、本番の、サークルで行くときの下見に3人ぐらいで行っ

たんですよ。事前にちょっと見に行っておくと、1年生だったんで行かされて。あれ、昼過ぎから登り始めたんだと思うんです。途中で山小屋に泊まる予定だったんだけど、山小屋へ行く前に暗くなってしまって。私は、あのときはまだ雪が残っていて、ゴールデンウィークのときかな、山に雪がいっぱい残っていたので、これはもうだめかなと思いました。でも最後のあがきでワァーワァー、ワァーワァー、みんなで言っていたら、すぐ100mぐらいのところ、山小屋があって、無事助かったというか。でも笑い事じゃなくて、とんでもないことをしてしまったと思って反省しています。

いろいろな山の安全対策というのは、もちろん、行政としてやらなければいけないことはいろいろあるんですけども、さっきおっしゃっていただいたように、最後はやはり自分で、自己責任じゃないと、山って天候もいつも変わるし、同じ山でも、今言ったように、朝から登ると夜歩いたら全く違う山になってしまうので、一律にはなかなか言えないし、登る人たちの自覚ってというのはすごく大事なというのは、身をもって体験をしています。

それからもう一つは、五感で感じるということですね、子どもたちの話で。さっきまた東京の話が出たけど、私は国立というところに長く住んでいて、今はもうマンションだらけ、家だらけで、全く自然がないところですけども、私がいたころはまだ雑木林だったんですね。今でも子どものときの思い出でよく思い出すのは、雑木林の中に一人で、風の音とか聞きながら、日がだんだん暮れていく中で、一人ぼっちで、あれ、何で一人ぼっちでいたのか、どういうシチュエーションだったかわからないですけど、そういう、その光景だけ、すごく覚えているんですよ。あれはやはり、さっきの風の音だったり、皮膚で感じる感覚だったり、あるいは森の匂い、そういうものがトータルで自分の中にあるわけですね。

昔、横浜にいたとき、横浜市のお母さんたちが言ったのかな、「うちの子どもは4年生なんですけれども、『お母さん、年輪って何?』ってこの間聞かれてショックを受けた。」とか言っているわけですよ。そうなんですかという話で。やはり今の子どもたちって、どんどん、どんどん、自然と切り離されているので、もう一回、大人になってからの山の安全対策とかは、しっかり学んでもらうということが必要なんだと。それと同時に、子どものうちから、自然というのはこういうものだということを皮膚感覚でわかってもらえるような教育が必要だなと思います。

今、いわゆる「森のようちえん」ですけど、全国の中で長野県が一番多いんですよ。幼児教育を森の中でやっている。今、県としては、その認証制度をつくって、さっきのシカ肉認証制度で、シカ肉と子どもを一緒にしてはいけなんですけど、同じ認証なんですけど、きちんとルールをつくって、そういうものを広げていこうかなと、今、取り組み始めています。これだけ自然に恵まれた長野県、さっきの学校登山の話も、先生たちの負担が大きいというので、少しずつ減る傾向もあるので、もう一回、自然の中で我々が生きているありがたさを改めて考え直して、そうした自然の中での教育というのがしっかり行われる県にしていきたいなと思っています。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

松尾さん、よろしいですかね。ありがとうございます。松尾さんから、今、お話しただいて、それに対して知事からもお答えいただいたんですが、ここで、皆さんにまたご意見をお聞きしたいと思います。

1つ目は、やはり学校登山というのがあって、実は、これ、長野県の一大行事だったんですが、だんだんだんだん、今、減っております。学校登山をもっと積極的にやるべきだと思う方は黄色、いや、やっぱり大変だからやめたほうがいいんじゃないという方はピンクの札を挙げてください。

○ここで旗揚げアンケートを実施しました。

(質問)

長野県では、学校登山をもっと積極的にやるべきだ。

(結果)

全員が「はい」でした。

あっ、意外ですね。いや、実は、もう少しピンクが出るかなと思っていました。そうしたら、学校に、いわゆる松尾さんみたいな登山案内人の方をきちんと派遣して、事前教育からやり、それをきちんとどこかがサポートするようになれば学校登山があっても良いと思うかどうかという質問をしようと思ったんですけれども。全員の皆さん、賛成ですので、これはぜひ、知事、何とかご相談したいですね。

#### 【長野県知事 阿部守一】

登山案内人の人たちが学校で生徒たちと一緒にいく機会って、ありますか、あまりないのですか。

#### 【松尾雅子氏】

あります。学校登山で、ガイドで雇われて行くんです。でも、現状は、そのガイドのガイド料が、結局、現在は生徒たちの負担になっているので、何人も頼むと生徒の負担が大きくなってしまいうことで、1校に1人しか付けられないとか。でもそれって、私が1人で50人も60人もなんて、一番後ろの人はもう見られないんですよ。なので、そういうところを、せっかく県として認証している案内人なので、県としてなんとかできないものかと思います。お金の話にはなってしまいますけどね。

#### 【長野県知事 阿部守一】

ではちょっと市町村と相談して考えます。

#### 【松尾雅子氏】

でも本当に、学校って、いろいろな行事があったり、中体連（中学校体育連盟）の行事

がちょうどあったりとかで、とても大変なので、正直、先生たちもそこにそんなに時間がかけられないという現状がありますよね。

**【長野県知事 阿部守一】**

私は、信州登山案内人の人たちがそういう活動をどんどん一緒にしてもらえることが大事だと思っているんです。その反面、今、おっしゃっていただいたように、学校の先生方に何でもかんでも、修学旅行もやれ、登山もやれ、部活もやれ、授業もやれ、お母さんたちともしっかり付き合えと言われても、それは先生方、大変なんですね。

**【松尾雅子氏】**

大変なんですね。

**【長野県知事 阿部守一】**

やっぱりそれぞれの分野の専門家がしっかり子どもたちをサポートしていくということが大事だと思っていますので、宿題としてしっかり受け止めておきたいと思います。

**【松尾雅子氏】**

そうですね。なので、山岳高原観光課と、今度、教育委員会ががっちり組んでいただいで。

**【長野県知事 阿部守一】**

登山案内人の皆さんからも県にそういう要請書を出してください。

**【松尾雅子氏】**

そうですね、では、私、違う名前で出します。

**【長野県知事 阿部守一】**

違う名前じゃなくてもいいですから。

**【松尾雅子氏】**

そうですね、私、すごく大事だなと思うのは、とにかく学校の先生も、今、登山の経験が少ないですね、若手の先生とか。少ない方が多いので、そういう方が、自分が登るのに必死なのに、子どもたち、1クラス30人を見るなんて、無理なんですね、正直言って。それは私たちの仕事なんです。だから、先生たちが楽しんでいる暇がないので、先生たちが学校登山を楽しまなかったら、生徒たちが楽しめるわけがないと思いませんか。

**【長野県知事 阿部守一】**

思います。私、いつも言っているんですけど、いろいろな学校の先生を思い出して、や

っぱり、特に小学校の先生って、何でも教えなければいけないから、得意、不得意、ありますよね。子どものころは先生ってすごって思ったけど、大人になって考えれば、先生だって国語は得意だけど算数は不得意な先生がいただろうなど。やっぱりある教科が嫌いな先生に教えられると、多分、子どももその教科を嫌いになるんじゃないかと思いますね。

**【松尾雅子氏】**

思いますよね。私が案内人をやっているのは、もう山が大好きで大好きで、山っていいねっていかたまりなので、だから皆さんに山のすばらしさをお伝えできるんです。これが、仕事だから仕方なく行くかというような案内人だったら、多分、もう二度と松尾さんには頼まないとなると思うんです。そういうことですよね。

**【長野県知事 阿部守一】**

松尾さんには、今日、そうやって言われたから、ちょっとこれは知事としてしっかり考えていきますので、よろしく願いいたします。

**【松尾雅子氏】**

ぜひお願いします。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございました。そろそろ時間も残り少なくなってまいりましたので、皆様のほうから何かご意見がございましたら、手を上げていただければと思いますが。はい、ではどうぞ、お願いします。

**【参加者 女性】**

茅野から出席させていただきました。今、お話を聞いていて、せっかく「信州 山の日」も制定されたことですし、山のことなら信州に聞けと。組織も、人も、それから育てるノウハウなんかも、日本一にしていけばいいと思います。今年決まって来年というのは無理でしょうけど、5年、10年の計画を立てて、案内人はこれだけそろっているよ、林業の方たちはこうだよ、製品もこういうふうになっている、デザイナーさんも参加する。それから、子どもたちも小さなころから、身の周り、里山から始まって、登るのが好きな子は登るでしょうし、そういう、信州全体がまとまって、そういった機運になっていくような雰囲気づくりを県にしていきたいと思います。あとは、主だった専門家の人たちが集まって、ぜひ、いろいろな縦割りにしないで、人の生活って縦割りじゃないと思いますので、かかわり合って、で、楽しんで。とにかく全国どこでも山はあるわけですから、それを先駆けて、信州に聞いたら山のことも林野のことも、それから林業のことも何でもわかるよと、情報を集積しているというような信州にしまえば、私はいいと思います。以上です。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございました。では知事、答えてください。

**【長野県知事 阿部守一】**

いいですね。うちの県の組織を改正して、信州山岳部ってつくっちゃいますかね。いや、今の話は、冗談じゃなくて本当にそう思っていて。今日は今、企画振興部の広報県民課がこのタウンミーティングをやっているんですけども、先ほどの前半は林務部なんですね。日本の中で林業専門の部があるのは、うちと岐阜県だけですね、今。それだけでも、うちは林業に力を入れてきた県だとは思っています。

ただ、お話しいただいたように、山の話って、実はもっと広いんですよ。林業の話もあれば、環境の話もあれば、観光の話もあれば、あるいは救助の話もあるんですよ。警察とか消防とか。実は、この間も、消防防災航空センターへ行って、山岳救助をやっている人たちとも話したんですが、最近、やはり少し山岳遭難が多いというだけでなく、安易に呼ばれているところもあるなど困っていました。安易にというのは、最近、救急車の出動要請も安易に行われているものが多くて、少しやけどというか、日焼けしすぎてしまったからとか、そういうことで救急車を呼ぶ人がいるのと同じように、そもそも持っている食料が少なく、それがなくなったから何とかしてくれとか、そういう要請もあるそうです。言われれば断るわけにはいかないから救助をしに行くけど、命がけでヘリで行くのに、内心はいろいろ複雑な思いもありますよ、と言われました。そうやって多くの人たちが、山に関わって、守られているし、育っているというところがあります。

そういうものは各部縦割りじゃなくて、もっとトータルで、この山をみんなで守りましょうという組織的な対応を長野県から発信していくというのは大事だと思います。それは行政だけじゃなくて、民間の人たちも含めてです。それは、何かそういうネットワーク型のいい組織、組織というところとちょっとかたいですけど、何かできればいいなと思いますので、研究させてもらいたいと思います。ありがとうございました。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

ありがとうございます。本当に皆さんからもっとご意見を頂戴したいんですけども、時間も制限がございまして、誠に申し訳ございません。最後、矢口監督、信州の山、きっと楽しいこと、いっぱいあると思うんですよ。その楽しみ方とか、それから「信州 山の日」に対する期待とか、何かございましたら。

**【映画監督 矢口史靖氏】**

皆さんに僕から、信州の山はおもしろいですよって説明できるほど、僕は信州の山のことを知りません。すみません。ただ、さっき学校登山の話が出ていましたけど、学校登山自体、僕、わかりません。学校登山って、学校の毎年の行事として全員参加で登山するということですか。それは、小学校、中学校であるんですか。(あります)

そうなんですか。それって、そんなに危険な山じゃないですよ。でも、それがずっと

続いていたと聞くと、すごくいいなって思うんだけど。だんだんやめていっちゃう学校もあるんですか、学校登山を。

#### 【長野県知事 阿部守一】

まだ、ほとんどの学校がやっています。少しやめたけど、先生方の負担が重いというのでやめたというところはあります。

#### 【映画監督 矢口史靖氏】

でも、僕はもう単純に、それが学校行事としてあるのは、とても楽しくていいなって思っちゃいます。

ちょっと「WOOD JOB! (ウッジョブ!)」の話をしていいですか。先ほどちょっとアンケートをとったときに、既に見た人、もういらっしゃいましたけど、まだ見てないという方、結構見かけました。今日、来ているのは、僕、もちろん「WOOD JOB! (ウッジョブ!)」を見てほしいから来ているんですけど。もし、まだ見てないという方、いや、どうせ林業の話でしょうって思っていたら、大間違いですよ。林業を入り口として、主人公の男の子がいろいろな面に、本当に壮絶な、悶絶するような、楽しい目も、危険な目も、いろいろな目に遭うという、エンターテインメントのお話です。皆さんが想像しておられるよりも、相当おもしろい映画です。おそらくイメージと違う中身が出てくると思います。なので、映画、どうしようかなと思っている方は、ぜひ、身近な方を連れて映画館に行ってください。確実におもしろいです。もう一回も笑わなかった、全然おもしろくなかったという人が、いるはずはないと僕は思います。

それくらい自信を持って、今回、つくってありますので、本当にお金を払っても、払っただけ得したなって思える映画ですので、ぜひ見てほしいなと思います。山の日に行こうなんて思ったら終わっちゃいますので、この1週間以内に映画館で見てほしいと思います。山のことも、林業のことも、いろいろなことが正直に描かれた映画ですので、林業の入り口としても見られるし、里山を楽しむという目線でも見られると思いますし、伊藤英明のふんどし姿が格好いいという楽しみ方もできますので、ぜひ映画館で見てほしいと思います。

この山の日というのが今までなかったのが不思議なぐらいで、日本って本当に山と森とがとても多い国ですから、特に長野は森林面積がとても多いので、山の日というのは、本当に大きなイベントになったらいいなと思います。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

もう1点だけ、松尾さんからお話があるそうです。

#### 【松尾雅子氏】

知事もいらっしゃるので、せっかく山の日が制定になるので。山って、誰でも、知らない人でも、行き違うときに「こんにちは」って言うんです。せっかくみんな、山っていい



よねって思って来ているんだから、「こんにちは」って言わずに、「山っていいよね」みたいな、「こんにちは」じゃなくて、どうですか、そういう感じでアピールしていったら。

**【長野県知事 阿部守一】**

何かちょっとこの、「WOOD JOB！（ウッジョブ！）」でも、信州の山のあいさつというものを作ったらいい。

**【松尾雅子氏】**

そうそう、いいですね、「信濃の国」みたいにね。

**【長野県知事 阿部守一】**

信州の山のあいさつはこれだっていうものをやってみれば、山の日になんてやりたいと思います。

**【松尾雅子氏】**

いいですね。私と山で会ったときは、必ずこれで、「こんにちは」以外にこれで。そうすると、来てくれた人だねという感じで。みんながはやりの先端を行って、はやらせてみればいいのではないですか。

**【長野県知事 阿部守一】**

それは、ぜひちょっと考えないといけませんね。せっかく今年から「信州 山の日」なんで、今年から何か、いや、信州の山、変わったなと思ってもらえるようなことが必要なんで、ちょっと登山案内人の人たちで知恵を出して、これだって決めてください。

**【松尾雅子氏】**

ですね、本当ね。

**【信州大学教授 鈴木啓助氏】**

そればかりじゃなくて、皆さんもぜひいいアイデアがあったら県庁に電話していただければ、よろしくお願いします。

誠に申し訳ございません。時間が迫ってまいりましたので、最後に、今日のタウンミーティングを閉じるに当たって、知事のほうから言葉をお願いしたいと思います。

#### 4 知事 結びのあいさつ

**【長野県知事 阿部守一】**

どうも今日は大変ありがとうございました。時間がもう少しあれば、もっと楽しい、奥

深い話に入れたような感じがします。でも会場の皆さんの思いも聞かせていただきながら、タウンミーティングをすることができました。

矢口監督にもずっと付き合っていただきまして、大変ありがとうございました。「WOOD JOB! (ウッジョブ!)」の宣伝、私もさせていただくと、私も子どもを連れて見に行って、さっきも言いましたけど、うちの子どもは、途中でゲラゲラ笑っていました。声を大きく出しすぎると困るんで、私が子どもの口を手でふさいでいたような状況ですので、絶対楽しめる映画だということを、私からもお伝えをさせていただきたいと思います。

今日は、山について、いろいろな角度からお話することができてよかったです。また7月第4日曜日、「信州 山の日」であります。いろいろなイベント、どんどんつくって、皆さんと一緒に山を楽しみ、山を守っていきたいと思います。どうも今日はありがとうございました。

#### 【信州大学教授 鈴木啓助氏】

もっと山を盛り上げるためには、こんな1時間ぐらいの話題では絶対終わらない、いろいろなテーマがございます。ただ、今日、本当に皆様のおかげさまで、何とか円滑に進めることができました。本当にありがとうございました。

最後に、阿部知事、それから矢口監督、松尾さん、原さん、そして会場の皆さん、どうもありがとうございました。

これで県政タウンミーティングを終了したいと思います。それでは、進行役をお返しいたします。よろしく申し上げます。

## 5 閉 会

#### 【広報県民課長 土屋智則】

どうもありがとうございました。鈴木先生、矢口監督、原さん、松尾さん、そして会場の皆様、どうもありがとうございました。もう一度、ゲストの皆様に改めて拍手をお願いいたします。

本日を契機に、信州の山、「信州 山の日」、ますます盛り上げてまいりたいと思います。皆様とともに盛り上げてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、これをもちまして「『信州 山の日』50日前カウントダウンイベント in 富士見町」を終了といたします。気をつけてお帰りくださいませ、ありがとうございました。